

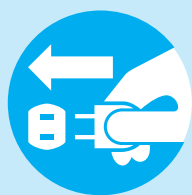
電気、水道、ガスのご使用は…

巻末の「どうしよう こんなとき」府営住宅ガイドブックもご覧ください。

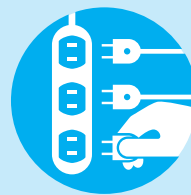


電気

電気器具の使用



電気器具はできるだけ直接コンセントから使用し、差し込みプラグはキッチリ奥まで差し込んでください。キッチリ差し込まれていないと接触不良による過熱事故の原因となります。



タコ足配線は火災の原因になり、危険ですので極力避けてください。



お出かけの際、不用な電気器具は、コンセントから抜いてください。不在が続く場合は、特に注意してください。



冷蔵庫などをコンセントに差したままにすると、長い間にたまったホコリや水分などのせいで、電気がショートして火が出ることがあります。定期的に掃除をしましょう。

安全ブレーカー(分岐開閉器)について

安全に電気を使用できるよう各戸に安全ブレーカーが設置されています。一定の使用量(契約電流)以上にご使用になりますと、スイッチが自動的に下がって電気が切れます。この場合は故障の箇所を直すか、または使用器具の数を減らし、スイッチを上げてご使用ください。

- ブレーカーは各住宅の玄関付近に取り付けてあります。
- ブレーカーは電気の使い過ぎを防ぐための保安装置です。



【住宅内部の電気が切れた時】

【各住戸の電気許容量以上の電気を使用した場合】

ブレーカーが自動的に作動し、電気が切れます。その場合は、使用中の電気器具の使用を減らしてから、ブレーカーのスイッチを入れてください。

【電気器具の故障で「ショート」した場合】

ブレーカーが自動的に作動し、電気が切れます。その場合は、ショートした電気器具をコンセントからはずし、電気工事店にコンセント部などの破損した箇所の修理を依頼してください。(コンセントの破損は入居者負担です。)

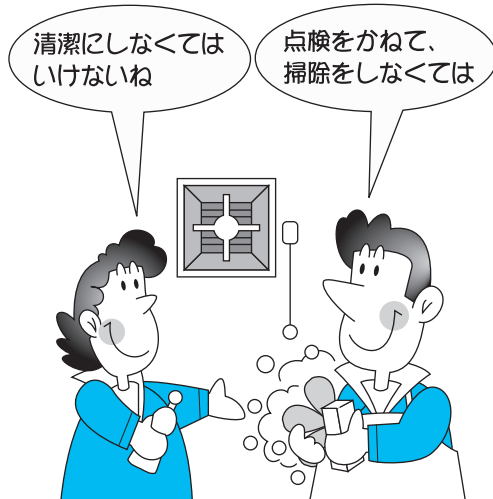
【分電盤に漏電遮断器が付いている住宅の場合】

配線や電気器具で漏電状態が発生すると、漏電遮断器が自動的に作動し、電気が切れます。その場合は、ブレーカーを全部切ってから漏電遮断器を入れ、ブレーカーを1カ所ずつ入れ、漏電している回路を調べたうえで、その回路のブレーカーを切り、最寄りの電気工事店に修理を依頼してください。

換気扇の使用

換気扇は、湿気や臭気などを外部に排出し、室内の換気を行うために設けられています。湿気の多い浴室などでは入浴後も、しばらくは換気扇を回し十分に換気を行う必要があります。これらの換気扇は、台所の換気扇ほど頻繁に清掃を行う必要はありませんが、長く使用しますと、空気中の綿ぼこりなどが吸込口や換気扇(羽根)に付着し、機能の低下や、カビなどの発生を引き起こし、衛生上よくありません。

- ときどき吸込口を取り外し、清掃や換気扇の点検を行ってください。



【換気扇(壁付型)】

住宅によっては、換気扇(15cmまたは20cm型)を取り付けられるようになっていきますのでご利用ください。

●ダクト用ファン

外気に面していない浴室や洗面所、便所に取り付け、排気ダクトを使用して外部へ排気する換気扇をいいます。

●パイプファン

便所などに設置するもので、特に小容量のものをいいます。

【台所換気扇(レンジフードファン)】

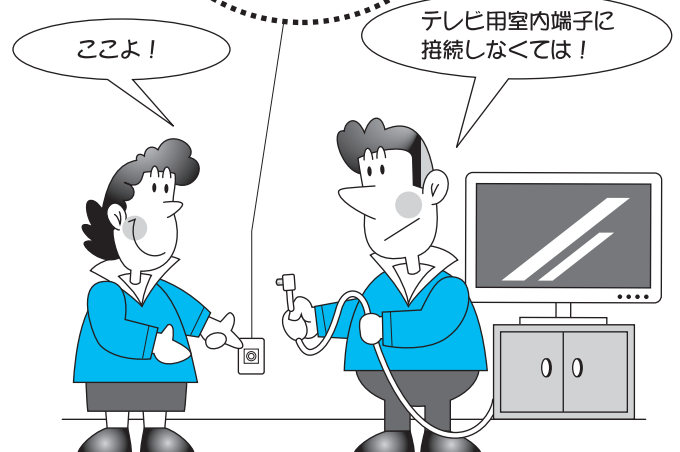
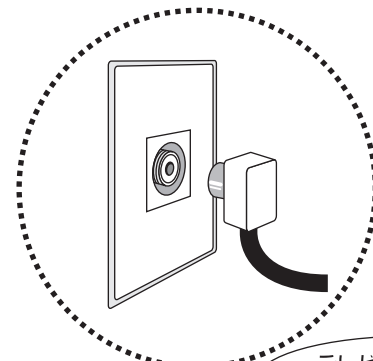
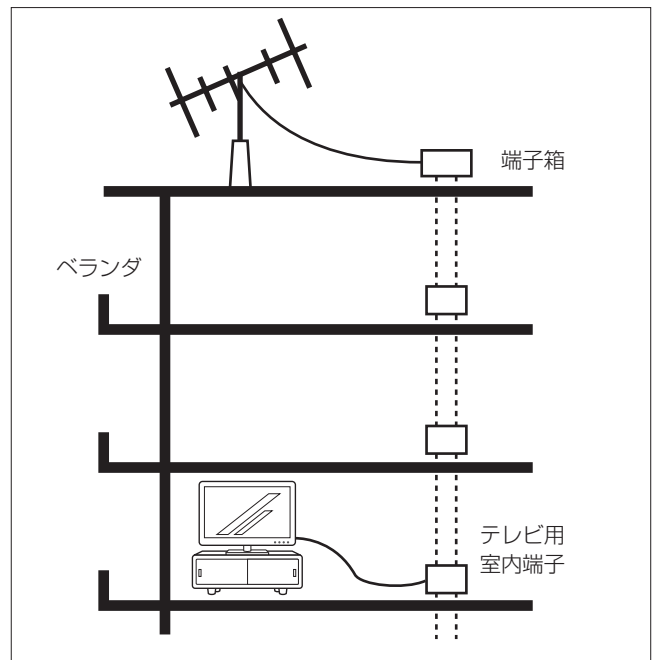
レンジフードファンのグリスフィルターは月1回程度掃除してください。掃除は、中性洗剤およびぬるま湯などで付着した油汚れなどを、洗い流してください。早めに行えば汚れなども早く落ちます。

エアコンの使用

エアコンの使用については、22ページを参照してください。

テレビアンテナの接続

各室内またはベランダのテレビ用端子まで配線してありますので、端子とテレビをフィーダー線または同軸ケーブルで接続してください。





水道

水道の元栓

水道の元栓(位置を確認しておきましょう。)を右に回して締めると、あなたの住戸の全部の水が出なくなります。

- 漏水事故や修繕の時などにご使用ください。
- 長期間留守にされる時は、事故発生防止のため元栓を閉めてください。

ご注意ください



メーターボックス内へは絶対に物を入れないでください。物が入っていると、修繕や検針ができませんし、メーターの故障や水漏れの原因にもなります。

水道の凍結

冬期、外気温が0℃以下になりますと、水道管、水道メーターおよび便所のロータンク用給水管などが凍結して破損することがあり、水損事故につながりますので注意してください。

【凍結を防ぐには】

- (1) テレビ、ラジオなどの気象情報に注意しましょう。
- (2) 寒波が予想される時は、1分間に牛乳ビン1本分程度(200ml)の水を出しておきましょう。この水は風呂、バケツなどにためて無駄にならないように使うとよいでしょう。
- (3) 湯沸器や便所のロータンクは、止水栓を閉じ、内部の水を流し空にしましょう。
- (4) 水道メーターは、破損防止のため毛布やボロ切れ、新聞紙、ダンボールなどでくるんで保温しましょう。
- (5) 冷たい外気のあたる水道管には、風よけをつけましょう。
- (6) 排水管の逆流防止のため、事前に管の清掃をしましょう。

漏水の場合

漏水の場合は、元栓を閉めてから担当の管理センター、または巡回管理員に連絡してください。営業時間外、停電などで管理センターに連絡が取れない場合には時間外緊急連絡センターへの連絡も可能です。(裏表紙参照)

断水の場合

断水は、停電やポンプの故障または受水槽等の清掃において起こることがあります。

- 断水した時、水道の栓を開けたままにしておくと、留守中などに水が出て部屋が水浸しになったり、ときには階下に水が漏れて迷惑がかかることがよくあります。
- 断水の際の外出、就寝などの時には、必ず閉栓を確かめてください。
- 断水時には、担当の管理センター、または巡回管理員へ連絡してください。営業時間外、停電などで管理センターに連絡が取れない場合には時間外緊急連絡センターへの連絡も可能です。(裏表紙参照)
- 断水復旧後には、水が濁ったり空気が混じることがありますが、しばらくの間、水を出しておくと正常に戻ります。

【凍結して水が出ない時には】

- (1) 湯沸器のガス栓や水道の元栓を閉めて、器具は絶対に点火しないでください。
- (2) 水が出ないからといって、あわてて熱湯をかけると破損の原因になりますのでやめてください。
- (3) めるま湯で溶かすか、気温が上がれば自然に溶けるので、すぐに必要でないところは、自然に溶けるのを待つのが安全な方法でしょう。
- (4) 凍結がおさまったら、湯沸器などに異状のないことを確認して使用してください。

凍結予防だね！



ためた水は無駄にならないようにね

ご注意ください



異状に気づいた時は、各戸水道メーターの元栓を閉め、担当の管理センター、または巡回管理員に連絡してください。

住宅内への供給方法

【直圧方式】 公営水道の水を直接みなさんの住宅へ供給する方式です。

【増圧方式】 公営水道の水をポンプで加圧してみなさんの住宅へ供給する方式です。

【受水槽方式】 公営水道の水をいったん、住宅内の受水槽などに受けて供給する方式です。

なお、この方式による住宅の水の使用量については、ひとつの親メーターを通じた水が各戸に給水されています。

親メーターの指示水量と各戸メーターの集計指示水量は、メーターの性能、共同水道の使用、その他種々の事情により合致しない場合があります。この親メーターと各戸メーター集計の差水は、みなさんの水の使用によるものですから、みなさんの負担となります。

ガス

不完全燃焼、換気不良の防止

- ガス使用時には、燃焼するガス量の5～6倍の空気が必要ですから部屋の換気をよくしましょう。
ガスストーブ使用時には、60分に1回、3分位の窓の開放が換気の目安です。
- バーナーの炎は空気口で調節してください。
- 揚げ物の途中など、ガスを点火したままそばを離れないでください。
鍋の中の油の温度は意外に早く高温になり、引火しやすいので火災のもととなります。
- 長期不在のときは、元栓も締めておきましょう。

ガス中毒の防止

- ガス器具、ゴム管は、ガス会社の検査済みの優良品が安心です。
- ゴム管は固く十分に差し込んで、両端を安全バンドでしっかり止めてください。
- 差込口のゆるくなったゴム管は切りつめ、古いゴム管は新しいゴム管に取り替えてください。また、ビニール管は危険です。
- 小さい部屋は特に換気を十分してください。
- コンロなどは手入れして、火の出る穴を掃除しましょう。
- 利用しないときは、器具栓、ガス栓を閉めておきましょう。



ガス漏れに気づいたとき

- (1) ガスの元栓を締めてください。
- (2) ドアや窓を全開して、ガスを室外へ追い出すようにしてください。



- (3) 火気はもちろん禁物、電気のスイッチ(換気扇や照明器具など)もさわらないでください。



- (4) 契約しているガス供給会社へ連絡してください。
- (5) 家族・近隣住宅へ連絡してください。
- (6) 避難してください。

火災・ガス爆発・ガス中毒の回避